CORE Metadata, citation and similar papers at core.ac.uk

P-15

Adecut®による扁平苔癬型薬疹の1例

（皮膚科）○平田雅子、小宅慎一、小林早由美
大井綱郎、古賀道之

症例は62歳女性。初診、平成6年9月[redacted]。平成6年7月末より手背、下腿に皮疹出現。徐々に全身に拡大した。患者は高血圧のため内科にて加療中であり、平成4年5月[redacted]からAdecut®を処方された。自己判断にて継続したり中断したりしていたが、症状に合わせて1日に1～2錠（15 mg～30 mg）内服していた。皮疹出現後も内服を断続的に継続しており、近医皮膚科にて内服薬・外用剤にて加療を受けるも著変なく、軽度の瘙痒も伴ったため当科紹介受診となった。初診時、ほぼ全身に米粒大から母指等大までの扁平隆起性の浸潤性紅斑が散在し、前腕、下腿には鱗屑を伴う表面角化性の紅斑が多数存在していたが癒合傾向はなかった。Adecut®による薬疹を疑い内服を中止したところ皮疹は消退傾向を示し徐々に平坦化した。褪色後、軽度色素沈着を残すのみとなった。貼布試験、掻破貼布試験では48時間、72時間ともに陰性。内服試験を施行したところ、計417 mg（15mg錠で27錠相当）で色素沈着部位に瘙痒を伴う浸潤性角化性紅斑が出現したため、内服試験陽性と判断し、Adecut®による薬疹と診断した。組織は扁平苔癬様。尚、Adecut®内服中止後のDLSTはcontrolに対して約10倍の陽性を得た。

尚、Adecut®は1989年4月に発売されたangiotensin I変換酵素の活性を阻害する降圧剤であり、皮膚科領域での副作用の報告は、1994年3月までの5年間に19例認められる。そのうち、扁平苔癬型の薬疹は自験例を含めて2例であった。

P-16

超大量輸血を必要としたangioimunoblastic T-cell lymphomaの1例

（八王子•免疫血液内科）○若杉和倫，坂本昌隆，
中村浩彰
（内科学第一）　稲富由香
（皮膚科）　中村　稔，玉井秀美
（八王子•病院病理）石川由起雄，木口英子，石井寿晴

はじめに：全身性リンパ節腫大、肝脾腫、発熱、多クローン性高γ-グロブリン血症、皮疹等の臨床像を呈し、病理学的にはリンパ節のびまん性破壊、小血管の増生、多彩な細胞浸潤を特徴とする症例をLukesらはimmunoblastic lymphadenopathy(IBL)、Frizzeraらはangioimmunoblastic lymphadenopathy with dysproteinemia(AILD)と報告している。私共はこのようなAILD症例の経過中に、多量の下血をきたし、多量の輸血とvasopressinを用いた症例を経験した。症例：[redacted]は1922年[redacted]生、血液型A Rh(+)。平成6年(1994)5月[redacted]、38℃の発熱、5月[redacted]に全身性の皮疹。5月[redacted]、初診時、頚部、腋窩部、ソケイ部等の全身性リンパ腺腫、全身性のeruption(with itching)、肝、脾腫軽度あり、胸部X線にて石胸水像が認められた。入院時検査では、高γ-グロブリン血症(G 3538, A 666, M 797 (mg/dl))、血清β_2-microglobulin高値(4.46mg/l)、WBC 6700(異型リンパ12%)、血沈83mm/1h、coombs (D, ID)陽性、EBVCA-IgG 640であった。既往歴：22才 Appendectomy。入院後経過：ペルエブスタイン様発熱持続、白血球数、異型細胞数は徐々に増加し、皮疹は消退傾向を示したが、全身性リンパ腺腫脹は増大傾向にあった。また、胸水量も増加、呼吸困難を訴えるようになった。病日14日頃より下血がみられ(6月[redacted]約1030ml, [redacted]1540ml, [redacted]925ml, [redacted]2165ml, [redacted]1788ml, [redacted]1405ml, [redacted]1425ml, [redacted]500ml)、そこで、6月[redacted]CRBC 10単位、WRBC 2単位、[redacted]CRBC 8単位、[redacted]CRBC 20単位、WRBC 4単位、[redacted]CRBC 10単位、[redacted]CRBC 10単位、WRBC 8単位、[redacted] CRBC 14単位、[redacted]CRBC 16単位を輸血、かつvasopressin(ピトレシン)20単位/日、3日間併用した(8日間の総出血量10778ml、総CRBC量88単位、総WRBC量14単位)。その後、下血量低下し、7月[redacted]よりVCR(1mg)、VP-16 100mg、PSL 15 mg化学療法施行を開始できた。